

## 競技規則「改訂」

| 現 行  | 改 訂  |
|--|--|
| <p>1.6.4 捻り演技において難易率計算に使用する型は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半回の宙返りではA,B,Cを適用する。</li> <li>・一回ならびに一回半の宙返りではDを適用する。</li> <li>・二回以上の宙返りではB,Cを適用する。</li> <li>・逆立ちの一回、一回半ならびに二回の宙返りではDを適用する。</li> </ul> | <p>1.6.4 捻り演技において難易率計算に使用する型は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半回の宙返りではA,B,Cを適用する。</li> <li>・一回ならびに一回半の宙返りではDを適用する。</li> <li>・二回以上の宙返りではB,Cを適用する。<u>但し、逆立ちの二回宙返りにおいて一回以上の捻りを伴う場合に限り、Dを適用する。</u></li> </ul> |
| <p>3.7.4 女子シンクロナイズド競技の5演技は4つ以上の群より選択すること。少なくとも1演技は前踏切を選択し、飛板飛込の場合には助走を伴うこと。</p>  | <p>3.7.4 女子シンクロナイズド競技の5演技は4つ以上の群より選択すること。少なくとも1演技は前踏切を選択し、飛板飛込の場合には助走を伴うこと。<u>但し前踏切を2演技以上選択した場合に限り、1演技は立飛込で行っても良い。</u></p>   |
| <p>3.7.5 男子シンクロナイズド競技の6演技は4つ以上の群より選択し、同群からの選択は2演技以下とすること。少なくとも1演技は前踏切を選択し、飛板飛込の場合には助走を伴うこと。</p>  | <p>3.7.5 男子シンクロナイズド競技の6演技は4つ以上の群より選択し、同群からの選択は2演技以下とすること。少なくとも1演技は前踏切を選択し、飛板飛込の場合には助走を伴うこと。<u>但し前踏切を2演技以上選択した場合に限り、1演技は立飛込で行っても良い。</u></p>   |
| <p>5.2.1 主要競技会における個人競技種目では7名、シンクロナイズド競技種目では9名の担当審判員が任命される。</p>   | <p>5.2.1 <u>日本選手権ならびに室内選抜飛込競技大会</u>における個人競技種目では7名、シンクロナイズド競技種目では9名の担当審判員が任命される。</p>  |
| <p>5.2.2 5.2.1以外の競技会においては個人競技種目を5名の担当審判員としても良い。</p>  | <p>5.2.2.1 5.2.1以外の競技会においては個人競技種目を5名の担当審判員とすることが出来る。</p>   |
|  | <p>5.2.2.2 <u>本連盟が承認した場合に限り、個人競技種目では3名、シンクロナイズド競技種目では5名の担当審判員とすることが出来る。</u></p>  |
| <p>7.4 個人競技種目では審判員の採点から最高点2名と最低点2名の採点を消去する。<br/>5名の審判員の場合、審判員の採点から最高点1名と最低点1名の採点を消去する。</p>   | <p>7.4 個人競技種目では審判員の採点から最高点2名と最低点2名の採点を消去する。<br/>5名の審判員の場合、審判員の採点から最高点1名と最低点1名の採点を消去する。<br/>もし、消去されるべき同点の採点が2つ、あるいはそれ以上ある場合、そのいずれを消しても構わない。<br/><u>3名の審判員の場合、審判員の採点を消去しない。</u></p>  |
| <p>7.5 シンクロナイズド競技種目では演技審判員の採点から最高点1名と最低点1名、ならびに同調性審判員の採点から最高点1名と最低点1名を消去する。<br/>もし、消去されるべき同点の採点が2つ、あるいはそれ以上ある場合、そのいずれを消しても構わない。</p>  | <p>7.5 シンクロナイズド競技種目では演技審判員の採点から最高点1名と最低点1名、ならびに同調性審判員の採点から最高点1名と最低点1名を消去する。<br/>もし、消去されるべき同点の採点が2つ、あるいはそれ以上ある場合、そのいずれを消しても構わない。<br/><u>5名の審判員の場合、審判員の採点を消去しない。</u></p>   |